

2023年度第三者評価 結果報告書



株式会社ミライ・シア

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

2024年3月29日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 154-0011
所在地 東京都世田谷区上馬2丁目25-4
フレックス三軒茶屋2階

評価機関名 株式会社ミライ・シア

認証評価機関番号 機構 16 - 237

電話番号 03-6805-4127

代表者氏名 岡村 和彦



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	岡村 和彦	経営	H1301020
	②	坪内 暁子	経営	H2201059
	③	加藤 みゆき	福祉	H0601067
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	とのがや保育園			
事業所連絡先	〒	190-1212		
	所在地	東京都西多摩郡瑞穂町殿ヶ谷892番4号		
	TEL	042-557-7601		
事業所代表者氏名	岩本 隆			
契約日	2023年 10月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023年 11月 6日			
利用者調査結果報告日	2024年 1月 16日			
自己評価の調査票配付日	2023年 11月 6日			
自己評価結果報告日	2024年 1月 16日			
訪問調査日	2024年 1月 23日			
評価合議日	2024年 1月 23日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査はアンケート方式で行いました。アンケートは事業所の協力の下、案内用紙を保護者へ配布してもらい、WEBで回答してもらいました。なお匿名性を確保するために、無記名としています。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2024年 3月 6日

事業者代表者氏名

園長 岩本



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1) 明確な方針と謙虚な姿勢（保護者との関係を大切にしながら、園としての方針を明確に伝え、共に子どもの成長を支えます。） 2) 受容と共感を大切にした指導（子どもの可能性を信じ、その力を最大限に引き出せるよう努力します。） 3) 開かれた運営（地域や保護者の方に愛され、信頼される運営を目指します。）</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p>
	<p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <p>「責任感」を持って職務遂行にあたってほしい。 また、園児や保護者・職員も含めて互いに「人権尊重」を念頭に、思いやりを持って努めてほしい。 小学校就学に向けて、「保育の充実」を常に考えてほしい。</p>
	<p>(2) 職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>保育士として、保育の知識向上に努める。 子どもを大切に、守るという使命感を常に忘れない。 職員同士の協調性、保護者対応能力を備える。</p>

調査対象

利用者家族49世帯を調査対象にアンケートを実施し、結果21世帯から回答が得られました。

調査方法

利用者調査はアンケート方式で行いました。アンケートは事業所の協力の下、案内用紙を保護者へ配布してもらい、WEBで回答してもらいました。なお匿名性を確保するために、無記名としています。

利用者総数

60

利用者家族総数(世帯)

49

共通評価項目による調査対象者数

49

共通評価項目による調査の有効回答者数

21

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

42.9

利用者調査全体のコメント

利用者家族49世帯に対し、有効回答21件で42.9%の回答率となりました。総合的な評価では、「大変満足」が8名(38.1%)、「満足」が11名(52.4%)、「どちらともいえない」が2名(9.5%)という結果になっています。事業所に対する総合的なコメントを見ると、「家庭ではできない工作や泥んこ遊び、季節の行事などを体験できるので楽しく通っています。」「子供が出来ないことを出来るようになるまで色々工夫してくださるのでとてもありがたいです。」等の回答がありました。一方で「食事エプロンについて、市販でも手に入りやすいものにしてもらいたい(ビニール製等)。」「もう少し保育園での様子を知りたいのでホームページの写真の枚数を増やしてもらいたいです。」等の回答もありました。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	18	3	0	0
回答割合は、「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が14.3%という結果になっています。自由意見は「家ではやらせにくいこともやってくれるので助かっています。」との回答がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	19	2	0	0
回答割合は、「はい」が90.5%、「どちらともいえない」が9.5%という結果になっています。自由意見は「こちらでは思いつかないようなアイデアで活動してくれています。」との回答がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	19	1	0	1
回答割合は、「はい」が90.4%、「どちらともいえない」が4.8%、「無回答・非該当」が4.8%という結果になっています。自由意見は「いつも美味しかったと笑顔で話してくれます。」との回答がありました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	17	3	1	0
回答割合は、「はい」が80.9%、「どちらともいえない」が14.3%、「いいえ」が4.8%という結果になっています。自由意見は「昨年、子どもの遊び場は減っていますが、その中でも工夫してくださっているのが分かります。」「午前中しか外遊びしていないので、午後も外遊びをしてほしい。」との回答がありました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	16	3	1	1
回答割合は、「はい」が76.1%、「どちらともいえない」が14.3%、「いいえ」が4.8%、「無回答・非該当」が4.8%という結果になっています。自由意見は「電話をすれば対応してくださるので助かります。」との回答がありました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	15	6	0	0
回答割合は、「はい」が71.4%、「どちらともいえない」が28.6%という結果になっています。自由意見は「出入りではインターホンを押さなければならず、面倒に感じる部分もありますが、そのお陰で子どもたちの安全は保たれていると感じます。」「子供達の衛生面が気になる。」との回答がありました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	18	1	2	0
回答割合は、「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が4.8%、「いいえ」が9.5%という結果になっています。自由意見は「平日に行事や面談があると行けない事が多いです。」との回答がありました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	19	1	0	1
回答割合は、「はい」が90.4%、「どちらともいえない」が4.8%、「無回答・非該当」が4.8%という結果になっています。自由意見はありませんでした。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	20	1	0	0
回答割合は、「はい」が95.2%、「どちらともいえない」が4.8%という結果になっています。自由意見はありませんでした。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	18	2	1	0
回答割合は、「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が9.5%、「いいえ」が4.8%という結果になっています。自由意見は「髪色や服装はもっと自由でいいと思います。」との回答がありました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	18	3	0	0
回答割合は、「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が14.3%という結果になっています。自由意見は「ひどくなる前にお知らせしてくれるので対処しやすいです。」との回答がありました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	13	6	0	2
回答割合は、「はい」が61.9%、「どちらともいえない」が28.6%、「無回答・非該当」が9.5%という結果になっています。自由意見は「保育園の様子を実際に見ていないので、ちゃんと対応できているかは判断できません。」「まだいさかいを経験していない。」との回答がありました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	19	1	1	0
回答割合は、「はい」が90.4%、「どちらともいえない」が4.8%、「いいえ」が4.8%という結果になっています。自由意見はありませんでした。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	16	4	0	1
回答割合は、「はい」が76.2%、「どちらともいえない」が19.0%、「無回答・非該当」が4.8%という結果になっています。自由意見はありませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	18	3	0	0
回答割合は、「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が14.3%という結果になっています。自由意見はありませんでした。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	12	6	1	2
回答割合は、「はい」が57.1%、「どちらともいえない」が28.6%、「いいえ」が4.8%、「無回答・非該当」が9.5%という結果になっています。自由意見はありませんでした。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	8	6	3	4
回答割合は、「はい」が38.1%、「どちらともいえない」が28.6%、「いいえ」が14.3%、「無回答・非該当」が19.0%という結果になっています。自由意見は「園内で解決できる困りごとしか経験していない。」「そのような状況になったことがないのでわかりません。」との回答がありました。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	事業理念・ビジョン・基本方針等は職員と保護者双方に浸透するよう努めています 園が目指している理念・ビジョン、基本方針などについては、園内に掲示したり、職員に配布することに加えて、採用面接時や園長面談、さらに職員会議や昼礼でその都度園長から話すことで周知徹底を図っています。保護者に対してはホームページ等への掲示に加えて、入園前面談、入園説明会、進級時保護者会等で繰り返し説明し、園の方向性への理解や協力等園の運営だけでなく、子どもに寄り添うことを保護者にも求めています。就学支援に重きを置いている点、障がい児保育の受け入れを積極的に行っている点が特徴となっております。	
	リーダーシップの軸を、現場をよく理解している主任やリーダーへと移行中です 子どもにとっての最善の利益を検討していく上で、理事長や園長によるトップダウンではなく、現場に軸足を置くボトムアップ型を採用しています。各職員が園長になったつもりで意見や提案を、乳児会議、幼児会議、給食会議等で述べられる環境になっています。その取り組みによって、子どもの年齢毎に方針等が変更されることなく、各クラスからの意見も参考にすることができます。同時に、年齢毎の問題点や課題が明確になって、目的・目標もはっきりしていきます。さらに、会議等で課題に向き合い、達成度合いを提示することも可能になってきています。	
	重要な案件では、特に、経営層の意思決定の内容や過程の透明性を図っています 障がい児保育の受け入れや特別支援等、すべての子どもが小学校にスムーズに移行できるようにするための方策等、保育に関する重要な案件、例えば、理事会で「園外保育マニュアル」策定では、議題提案並びに承認の過程を経て、職員会議等の会議で報告しました。一方、職員に関する重要な案件、例えば、給与や手当、あるいは職員形態等に関する情報共有では、それらを説明する会議にできるだけ多くの職員が参加するように促しています。参加が難しかった職員のフォローとして会議録の確認する方法で、情報漏れがないように努めています。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-2の講評		
<p>アンケートや会議参加等で利用者・職員の意向、地域ニーズの把握等に努めています</p> <p>保護者が保育に期待する内容は年々多様化しているため、行事後や保育参観、試食会等のイベント時にアンケートを実施し、利用者の意向把握を心がけています。コロナ対策ではイベントへの参加人数を制限したりすることもあったため、様々な意見が出てきました。その際、感染リスクがなお継続して存在することを説明したり、アンケートの結果を踏まえ保護者の理解・協力を求めたりしています。職員に対しては、面談や会議で職員の考えや意見を聞く機会を設けています。地域ニーズの把握では、町会や地域の福祉系団体の会議に参加し情報を収集しています。</p> <p>単年度事業計画のベースとなる中・長期計画策定では、主任・副主任も参加しています</p> <p>中・長期計画を基に単年度の事業計画を策定するため、主任・副主任には現場の声を救い上げて意見を出してもらっています。中・長期計画は曖昧になりがちですが、前年度事業の検証結果を参考に、中期と長期の課題や達成度合いを踏まえて計画を立てる等、より具体性を持たせた内容にし、理事会の承認を得て単年度計画を実施していく流れになっています。予算は前年度事業の予算執行状況に沿って、事業計画とリンクさせる形で、園長が経理からの報告を受けて策定していますが、就労の継続やサービスの質の向上のために人件費が占める割合は高めです。</p> <p>計画の着実な実行のために、職員の役割を明確にして課題や反省の機会を設けています</p> <p>計画を着実に進めていくには、職員各人の役割をはっきりさせて、また、それぞれの進捗状況を定期的に確認することが重要です。そこで、役割に関しては、職員ひとりひとりに通知文を出していますが、口頭でも伝達し、必要に応じて個別相談にも対応しています。進捗等に関しては数値化はしていませんが、反省会で、課題や反省点を出し合う等して、それらを教訓に次に繋げる取り組みを行っています。進捗状況の確認は、四半期と半期で行っており、必要に応じて見直し等もしています。</p>		
カテゴリ-3		
3	経営における社会的責任	
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリ3の講評

法・規範・倫理への理解と遵守のために、職員への研修やセルフチェックを行っています

福祉分野では個人の尊厳や人権を意識して業務にあたることに重要であるため、職員へ職員倫理規定を配布することに加えて、職員だれもがいつでも閲覧できるような場所に、倫理規定を就業規則等とともに保管しています。また、法・規範・倫理への理解と遵守を徹底させるために、職員会議や研修会で話す等しています。それらの事項が遵守されているかの確認の仕組みとして、昨年度からセルフチェックを導入し、各人が振り返りできるようにしています。日ごろから上司が職員の言動を確認し、気になる点はその場で指導しています。

利用者の権利擁護のために、第三者委員への相談や外部相談窓口の案内をしています

園内の苦情等が認められた場合は、苦情解決制度の利用や園以外の相談先に訴えることができるという説明を入園のしおりに示し、また入園時の面談でも保護者に伝えています。また、そのために第三者委員とも連携体制を整えています。職員は、保護者等とは日ごろから十分にコミュニケーションをとって、それぞれの意向を都度把握できるよう心がけてもいます。アンケートや口頭で利用者から苦情や意見が出た場合は、リーダー会議や職員会議で検討して、適宜対応するようにしています。苦情対応規程で職員には利用者対応の方法等を学ばせています。

専門性の社会への還元のために未就園児を対象する子育て相談や園内研修を行っています

地域の会議等に参加し把握した地域のニーズを基にして、保育の専門家として社会に貢献する取り組みを実施しています。未就園児対象の日程を作っており、その際に、子育て相談等にも対応しています。地域への講師の派遣は行っていませんが、園勤務の看護師等を講師として、地域住民向けの公開講座形式で園内研修を行って、子育て世代の知識やスキルの向上に協力しています。また、地域の関連機関との連携関係構築のために、地域ネットワーク内の共通課題の把握・検討や解決策の議論等を進める等、地域内に協働体制を構築する取り組みも進めています。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>被害の大きさや頻度を基にリスク要因に優先順位をつけ、マニュアル整備を進めています</p> <p>リスクマネジメントの流れの大枠を示す危機管理マニュアルの作成は既に完了しています。その危機管理マニュアルをベースとして、リスク要因に優先順位をつけて個別マニュアルの作成を進めています。最も優先順位が高いのは、命に関係する地震と火災、それ以外の自然災害です。続いて、事故、不審者、感染症となりますが、ほとんどのリスク要因に関して個別マニュアルの作成は完了しています。災害の発生等に備え、作成・研修等が来年度より義務化された事業継続計画(BCP)も年度内に完成予定です。</p> <p>リスク低減に向け職員会議等で危機管理マニュアル等を周知し、適宜訓練を行っています</p> <p>危機管理マニュアルや個別マニュアルは単に作成し、また、職員、利用者、関係機関等に周知するだけでは形骸化してしまいます。そこで、必要に応じて会議の議題に挙げ、再発防止のための意見や提案を出し合ったり、避難訓練や警察署との合同訓練を定期的に行う等、実践力を高める取り組みや対策の見直し等を必要に応じて行っています。また、職員から提出されたヒヤリハットや事故の報告書を基に、月1回、職員会議で定期的に再発防止、対策の見直しを行う等して安心・安全の度合いを高める努力をしています。</p> <p>就業規則に利用目的・開示請求時の対応について明記し、個人情報の保護に徹しています</p> <p>利用者情報には、疾患名や家族関係等大変デリケートな個人情報も含まれています。そのため、個人情報保護法に従って、就業規則に利用目的以外にも、利用者からの開示請求時の対応方法について新任職員でもわかるように詳細に示しています。SNS等による情報の拡散が社会問題になっている現在、職員による情報の取り扱いはもちろん、保護者に対しても注意喚起が必要であり、インターネット利用に関しても同意書を取る等個人情報保護に最大限の注意を払っています。インターネットへのアクセスは内部のみとし、USB持ち出しは禁止です。</p>		

5 職員と組織の能力向上		サブカテゴリ1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当

サブカテゴリー2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

公務員給与規定を参考に、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進等)を連動させています

現在の給与体系は園長が就任後に公務員給与規程等を参考に作成し、給与の引き上げを行いました。人材確保が困難な業界ではありますが、離職率は低く、産休・育休後も復職するケースが増えています。また、給与は、実績や実力、さらに、昇進や昇格等と連動した形にしています。つまり、雇用形態関係なく、やる気がある者が自ら学習する動きが見られ経験値を重ねていくにつれて、昇給・昇格等の機会が増える仕組みになっています。園長等と定期的に行われる個人面談等ではキャリア相談等も実施しています。

働きやすい環境づくり、並びに、個人の意向を重視した対応に力を注いでいます

どの業界でも言えることですが、出産・子育て、または、介護のために離職する職員を少しでも減らし、人材不足を防ぎ、各自のキャリアの継続に配慮した労働環境が整備されています。その背景には、経営層や同僚の理解以外に、職員間の協力体制があります。また、継続的就労を実現させるために、職員個人個人にしっかりヒアリングをし各自の意向やキャリア・プランに沿った助言等を個別面談で行っています。職員の保育等に関しては、主任や副主任、各リーダー等が褒めるべき時はしっかり褒め、職員のモチベーション・アップを図っています。

研修報告で共有した内容のうち、評価が高く実践が容易なモノはすぐに取り入れています

全職員に対して研修参加を推奨しています。研修は勤務時間内に費用負担なしで受講できます。もともとは各自のスキル・アップやキャリア・アップのための受講ですが、研修報告を通して他の職員への共有化が行われているため、職員全体のボトムアップに繋がっています。また、研究報告で共有した内容のうち、職員からの評価が高く、実践が容易なモノについては、当日からでも新規の取り組みとして取り入れていく風土があります。同様に、気づきや工夫を職員間で伝え合っ各会議を経て現場の取組み反映させていく流れもあり、職員の意欲が増えています。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度の課題と目標:

重要課題)
保護者対応力を身につけること。

具体的な目標)

送迎時に保護者とコミュニケーションをとること、また、良いことも悪いことも、その日にあったことを保護者へ伝達すること。

取り組み:

状況に応じて、事務所で話す等適宜対応の方法も検討して会話の機会を設け、保護者との会話を繰り返し、相談対応を行う中で、保護者対応力を徐々に身につけています。

また、問題を一人きりで抱え込むのではなく、主任や副主任、各リーダー等に早めに確認や相談をするようにしています。

目標の設定と取り組み

- 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

目標の設定と取組)

子どもの様子や保育内容、運営等に関しての会話の機会を増やすことで、情報の量と質を上げ、事故やトラブル、さらに苦情は減らそうとする状況が伺えます。また、会話の機会を増やすことで、コミュニケーション力向上に加え保護者の性格把握や対応予想が可能となるため、保護者対応力や問題解決力も上がり、信頼関係も強化して来るため、結果的に苦情等も減っていきます。

取組みの検証)

各職員が、子ども一人ひとりと向き合うのと同様に保護者一人ひとりの事情や意向に寄り添っていくことで職員と保護者の距離が縮まります。しかし、会話に時間をかけると保育体制が手薄になる場合は懸念されます。

検証結果の反映)

ひとりの職員が保護者対応をする際は、職員同士が日時調整等をしていたりしています。職員の中にはもともとコミュニケーションに自信がない人も存在します。話がこじれてしまって苦情に発展しそうなこともありました。状況に応じて、早期に主任・副主任に同席してもらい対応することで、保護者対応がスムーズになります。職員同士も声を掛け合い、自己判断や保護者との馴れ合いにならないよう、より自主的に職員同士が評価や検証し合うことが望まれます。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度の課題と目標:

重要課題)

組織力を向上させること。

具体的な目標)

共通目標を持ち、共通認識を深め、協働していくこと。

取り組み:

自己判断せずに、報告・連絡・相談を意識しています。

組織について職員が理解できるよう定期的に伝えていく試みを行っています。

自分が組織の一員であることを常に認識し、責任感を持つよう努力を促しています。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none">● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none">○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none">● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

目標の設定と取組)

組織力の強化のために、これまで園長中心に行ってきた組織マネジメントの業務に関して、段階的に主任と副主任にも担当させたり、また、経営関係の会議への参加を認める等させて、保育現場から抜け出させて理念に沿った保育を外から客観的に眺め、考え、検討する機会を増やしています。また、それ以外の職員にも園長になったつもりで意見を出す場面を提供しています。

取組みの検証)

保育現場に近い主任・副主任には段階的にマネジメントの仕事に移行させている段階です。ただし、財務と人事考課に関しては未だに園長に権限が留まっている状況です。組織のガバナンスの観点から、また事業計画と予算の関係性の理解の観点から、できるだけ早い時期に担当者を個別に決定する等業務の分散を行い、その取り組みに関して検証してみることが必要と考えられます。

検証結果の反映)

主任・副主任に人事面接や職員の相談対応への同席、各マニュアル作成等を分担させて、慣れてきた様子が伺えます。実施した内容に関しては既に現場等で用いる等反映されています。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3, 6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ-1の講評		
<p>町や園のホームページ、冊子、パンフレットなど様々な媒体で園の情報を発信しています</p> <p>当園の情報を得る媒体として、町や園のホームページ、町が作成している冊子「みずほ子育て応援ガイドbook」(福祉課窓口、子ども家庭支援センター、保健センターに設置しているほか、町のホームページからダウンロードできます)、園で作成したパンフレットなどがあります。町のホームページでは所在地、電話と園名をクリックで地図が表示されるように配信されています。パンフレットは園の概要や保育の特色と行事などが写真も活用して作成されています。自治会の掲示板には園で実施している、子育てイベントの案内を掲示しています。</p> <p>パンフレットや園のホームページは必要な情報がわかりやすく表現されています</p> <p>園のパンフレットは概要や特色のほか、カラー刷りで保育理念、保育目標、園で実施している行事など子ども達が楽しく活動している様子も伝え、必要なことを簡単にまとめた見やすくわかりやすい内容で作成しています。園のホームページには園の特徴、ランチメニュー(月の献立や食育への取り組みも含む)、ブログ、子育て支援事業「とのがや広場」についてなどを配信しています。「みずほ子育て応援ガイドbook」には近隣のお出かけスポットの紹介や子どもの健康、子育てに困ったらなどと、施設情報として定員、所在地、電話などが記載されています。</p> <p>見学は事前に希望日時を予約してもらって実施し、園の特徴などを伝えています</p> <p>見学は随時受け付け、希望日時に合わせて日程を決めて受け入れています。主な対応は主任や副主任が行ない、パンフレットを配布し一組20分から30分ゆっくり施設を案内しながら子どもの様子を見てもらっています。パンフレットをもとに保育理念や目標、保育の特色などについて説明しています。保育の特色としては一斉保育の中で課業(年齢に応じた文学や音楽など)に取り組んでいること、0~2歳児は「育児担当制保育」を実施し、きめ細やかな保育を行なっていること、3~5歳児クラスは和太鼓や体育指導に取り組んでいることなどを話しています。</p>		

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリ-2の講評			
<p>個人面談を実施し入園のしおりに沿って基本的なルールなどについて説明しています</p> <p>入園が決まった保護者には一人ひとり連絡し、入園説明会(個人面談)の日程を決めています。面談時に入園のしおりと必要書類(希望保育時間申請書・就労証明書・入園時における生活調査票・家庭調査票)などを配布し、園のしおりに沿って、園の概要や保育内容、登園について、保育時間、延長保育、入園に必要な物(持ち物は写真でわかりやすく示します)などについて説明しています。加えて家庭での状況や既往症、アレルギーの有無などについての聞き取りをしています。生活調査票・家庭調査票などは入園までに記入を依頼しています。</p> <p>子どもと保護者が徐々に園に慣れていけるように「慣らし保育」を実施しています</p> <p>個人面談で把握した内容は「面談シート」に記録され、入園までの子どもの状況や保護者の就労状況などを職員間で共有しその後の支援に反映しています。入園当初には1~2週間を目標に「慣らし保育」を実施し、無理なく園に慣れていけるように配慮し子どもの不安やストレスが軽減されるようにしています。0、1歳児は育児担当制保育でじっくり関わられるように配慮しています。子どもの状況や保護者の事情を考慮し、時間や期間を短縮又は延長するなどの配慮もしています。園での子どもの様子は送迎時の会話や連絡帳でその日の様子を丁寧に伝えています。</p> <p>小学校の校長や副校長などの話を聞く機会を持ち不安の軽減に努めています</p> <p>転園または退園する子どもに対しては、クラスの中でお別れ会などを行ない、友だちや担任とともに送りだしています。卒園する子どもに対してはアルバムやコップ、文房具、フォトフレームなどと在園児からプレゼントを渡しています。就学先の小学校には保育所児童保育要録や就学支援シート(保護者の希望による)を提出しています。5歳児は保護者会に小学校の校長や副校長に来てもらい、就学までに育てて欲しい子どもの姿について話をしてもらっています。コロナ禍で出来ませんでしたが、今後園の行事への卒園児の招待を再開したいと考えています。</p>			

サブカテゴリ-3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 13/13

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(00000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(00)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリ-3の講評

「全体的な計画」を踏まえ年間指導計画や月間指導計画を立案しています

「全体的な計画」を基本に、当園独自で作成している「とのがや保育園 目指す保育の姿」をもとに、年齢ごとの年間指導計画を作成し、現状に合わせた月間指導計画を立案しています。具体的な保育活動は異年齢での活動も含めて週案の中で表現しています。発達状況や心身生活状況などは定期的に児童票や日誌などに記録しています。「とのがや保育園 目指す保育の姿」では、年齢ごとの成長の目安や乳幼児に分けた支援方法と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」、遊び、食、課業などがまとめられ、園の保育の指標が示されています。

「個人月案」を作成して保護者とやり取りし、互いに子育ての視点を共有しています

入園時に提出してもらった「家庭調査票」や「生活調査票」「健康調査票」、聞き取りなどから子ども一人ひとりに関する情報を把握し、入園後には個別計画やクラス日誌、定期的に児童票に記録しています。0～2歳児と支援を要する子どもについては、毎月一人ひとりの状況に合わせた個人月案を作成しています。個人月案は養護(食事、生活)と教育(遊び、人間関係・言語、健康)に分け、それぞれねらいと働きかけ・配慮、保護者の意向・家庭での様子欄も設けて保護者とやり取りし、子どもの発達や成長を共に確認し互いに子育ての視点を共有しています。

計画や子どもの状況など必要な情報は会議や昼礼で共有しています

日々の活動や保護者とのコミュニケーションを通して子どもの変化の様子を把握し、振り返りもしながら計画を作成しています。作成した計画はクラス会議や乳児会議、幼児会議などを定期的に行ない、職員間で共有しています。変化があったときにはその都度検討しています。子どもや保護者の状況については、昼礼を実施しその日の朝の様子や保護者からの連絡などを報告して共有しています。内容は昼礼ノートに記録され、回覧(行事アンケートのまとめなども)するなど非常勤職員も含めて全職員が内容を確認し、閲覧後には捺印することとしています。

サブカテゴリ-5

5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
---	--------------------	------------------	-----

評価項目1	子どものプライバシー保護を徹底している	評点(〇〇)
-------	---------------------	--------

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当

評価項目2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している	評点(〇〇〇)
-------	-------------------------------------	---------

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当

サブカテゴリ-5の講評

情報の取り扱いについて説明するとともに子どもの羞恥心へ配慮した保育をしています

個人情報の取り扱いについては「入園に際しての重要事項」に明記され、入園時に園での写真やビデオ撮影について説明し、同意した旨の署名をもらっています。外部とやり取りする時にはその都度保護者の同意を得る事としています。子どもの羞恥心への配慮としては、トイレは年齢に応じてドアを設置しています。プール遊びは屋上で行ない、外部から見えない様にしています。移動にはラップタオルを使用しています。着替えは上と下の着替えを別々に行なうように指導しています。3～5歳児は看護師からプライベートゾーンについての話を聞いています。

子どもの人権について学ぶ機会をもち子どもや保護者へ適切な関わり方を確認しています

人権尊重については「全体的な計画」(保育において子どもの人権が法的に守られていることを十分に認識し、常にそれを尊重する態度を具体的に表して対応する)に明記されており、職員会議の中で考察しています。園では子どもの個性や自主性を尊重した保育を基本としています。保育室には「保育室で心がけること」が掲示されており、「否定的な言葉は使わず、肯定的な言葉で話しかける。」と明記しています。職員自らの言動を振り返る機会としては、「人権チェックシート」を活用して子どもや保護者へ適切な関わり方をしているか確認しています。

子どもと保護者の価値観や生活習慣を把握し、適切に対応できるように配慮しています

入園時の面談や行事後のアンケートや日常的なサービスに係る保護者の意向を確認し、子どもと保護者の価値観や生活習慣(生活リズムや嗜好)に配慮した対応をしています。個々の家庭の状況に応じて寄り添った対応ができるようにしています。虐待防止や育児困難家庭の対応については、オンラインで外部研修会に参加して園内で共有しながら職員へ周知を図り、理解を深めています。虐待が疑われる場合や気になるケースを発見した時には、「虐待対応ガイドライン」に沿って、速やかに町や関係機関に報告し連携する体制が整えられています。

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリー6の講評			
<p>基本的な各種マニュアルと園独自のマニュアルを作成し業務の標準化に取り組んでいます</p> <p>就業規則・規程集(個人情報保護や職員倫理規程などが明記)とともに危機管理や感染症対応、食物アレルギーなどのマニュアルのほか、事故対応マニュアルと安全点検表や遊具点検表を作っています。虐待対応ガイドラインなども準備して、保育業務の標準化に取り組んでいます。職員は分からないことが起きた場合や手順に疑問が生じたときなどにマニュアルを活用し、基本事項を確認出来るように事務所に保管しています。また、園独自の「育児・援助マニュアル」に加え、今後は119番通報、救急、防災マニュアルを作成し、職員へ配布する予定にしています。</p> <p>保護者や職員の意見は職員間で検討して保育に反映しサービスの向上を図っています</p> <p>各種マニュアルは必要に応じて、園長や主任、副主任が見直し、現状に合わせ必要に応じて内容の改善や改訂を行なっています。保護者の意見や要望は日々の会話や連絡帳、行事後のアンケートなどから把握しているほか、職員からの意見や意向は職員会議などで出しています。保護者からの意見(コロナ5類への変更後の行事についてなど)は職員間で検討し迅速に回答することとし、出来る限り保育や次回に反映できるように努めています。職員の意見は常に言い合える雰囲気を作られており、課題や反省点を話し合うことで、サービスの向上を図っています。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	
評点(000000)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している
評価項目1の講評	
<p>一人ひとりの状況を把握し、子どもが自ら遊びや玩具を選んで遊べる環境を作っています</p> <p>子ども一人ひとりの発達状況や生活の様子は、入園時の面談や送迎時の会話、連絡帳などで把握し、定期的に児童票に記録しています。日々の活動の様子は日誌に記録しています。室内は把握した子どもの状況に合わせて環境が整えられています。子どもの興味や成長発達に合わせた玩具を手に取りやすい低い棚に準備し、子どもが好きな遊びと玩具を選んで自由に遊べるようにしています。また、課業として体育や音楽・文学・表現などの時間を取り入れ、就学までに身に付けたい能力を育てています。室内はチェックリストを作成し整理整頓を心がけています。</p> <p>異年齢との交流などを通してあこがれや労り、思いやりの気持ちを育てています</p> <p>朝夕の合同保育の時間や、土曜保育などで、年上の子どもが年下の子どもの生活の手伝いをするなど異年齢での交流をしています。互いに関わり合いながら、あこがれや労り、思いやりの気持ちを育てています。作品展などの機会には3～5歳児を3グループに分け、グループごとに一つの作品を作っています。年上としての自信や、年上の子への憧れの気持ちを育てています。就学に向けた援助として、課業への取り組みで一定時間椅子に座る時間を作り、落ち着いて話を聞く環境づくりをしています。散歩などで小学校まで行き、就学への期待を持たせています。</p> <p>特別な配慮が必要な子どもへの適切な支援と配慮をしています</p> <p>統合保育を実施しており、専任の職員を配置(加配)して受け入れ体制を整えています。他の子どもたちと一緒に過ごす中で互いに刺激し合い、共に成長していけるように支援しています。町の相談員による巡回や療育機関の職員の訪問でのアドバイスを受け、園での支援に活かしています。子ども同士のトラブルについては、怪我のないよう可能な限り見守り、互いの気持ちに寄り添いながら解決に導いています。かみつぎについては、子ども同士の距離や職員配置を考慮し予防に努めています。必要に応じて室内カメラによる原因の解明と検証を行なっています。</p>	

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

登降園時の会話や連絡帳で家庭と園での子どもの状況を互いに確認しています

登園時は健康観察とともに連絡ノート(0~2歳児)と保護者との会話で、前日からの家庭での様子や体調などについて確認しています。朝保育で得た保護者からの連絡や子どもの様子は引継ぎノートに記録しています。降園時には連絡帳や口頭で日中の健康面やエピソードを具体的に保護者へ伝えています。夕保育時は必要事項を担当が引継ぎ表への記載や、口頭で当番保育士に引継がれ、保護者へ確実に伝えられています。0、1歳児は育児担当制保育で連絡ノートは一人ひとり丁寧に日中の様子が記載されています。クラス活動はホワイトボードで伝えています。

子どもの発達段階に応じた活動の中で基本的な生活習慣が身に付くように支援しています

子どもの発達段階に応じた支援の方法は全体的な計画や年間指導計画などに示され、活動の中で自然に基本的な生活習慣が身に付くように支援しています。できたことを認めて誉め、自信が持てるようにしています。できない事はやり方を丁寧に伝え、保護者とも連携しながら無理なく少しずつ出来るように援助しています。「とのがや保育園児援助マニュアル」には介助の手順、留意点などが明記されており、習得までの指標としています。個々の間隔に合わせてトイレに促したり、ボタンかけなどの玩具を準備し育児担当制で一人ひとり丁寧に関わっています。

生活状況や健康状態など一人ひとりの子どもに合わせた入眠時間や長さを調整しています

園のデイリープログラムの中で、年齢に合わせた基本的な午睡の入眠時間や長さは決まっていますが、連絡帳や保護者との会話から前日の睡眠時間や健康状態によっては、子ども一人ひとりに合わせて入眠時間や長さを調整しています。午前中の活動内容や気温、体調などに留意し、体を休められるように配慮しています。5歳児の午睡については、就学向け秋には無くしています。午睡をしない時間は、課業への取り組みや制作など机上遊びで静かに過ごしています。全職員がシフトで担当し、担任から特別な意向がない限り担当が活動内容を決めています。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評	
<p>子どもの自由な遊びの環境づくりと楽しく集団活動に関われるようにしています</p> <p>課業に取り組みながらも、子どもが自由に遊びと玩具を選んで集中して遊び込める環境づくりをしています。活動にメリハリをつけ自由に遊ぶ時間を確保するとともに、クラスでの活動も充実するように考慮しています。写真付で対象年齢を明記してまとめた「玩具リスト」が作成されており、子どもの年齢や興味に合わせて入れかえる時などに参考にしています。クラス別による一斉保育の中で協調性を持ち他児の様子も視野に活動することを大切に、集団での活動は一定のルールがあり、ルールを守ることで楽しく遊べることを伝え、危険回避にも繋げています。</p> <p>言葉の感覚を養い、音楽や体育など様々な表現を楽しめる機会を設けています</p> <p>乳児期から絵本の読み聞かせや、丁寧な語り掛けを通して発語を促し、職員や友だちとのやり取りの中で適切な言葉を引き出せるように配慮しています。互いを傷つけることの無いように、言われてうれしい言葉と嫌な言葉について話す機会を設けています。表現活動として課業の音楽(楽器やリズム)、体育指導などで身体を使った活動を取り入れています。学年の特色としては3歳児は合奏、4歳児は鍵盤ハーモニカ、5歳児は和太鼓とし、発表会で披露しています。制作途中の作品やブロックなどは一定期間展示し、遊びの継続性にも配慮しています。</p> <p>散歩などの戸外遊びを通して植物や生物などに触れ四季の移り変わりを感じています</p> <p>園庭にはジャングルジムや砂場、ポルタリング、雲梯、滑り台などの固定遊具が設置されており、それぞれの遊びを楽しんでいます。近隣には隣の市まで続く丘陵があり大きな都立公園として数種のエリアに分かれており、探索活動には最適で季節の花々や昆虫などと触れ合える自然豊かな環境に恵まれています。豊富な木々の中、風に運ばれてくる匂いや、葉の色、気温の変化などで四季の移りかわりを感じています。広場では体を使った遊びも楽しんでいます。園外保育にあたってはマニュアルを作成して職員に配布されており、安全に留意して出かけています。</p>	

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目4の講評

様々な行事を実施し、子どもが楽しみながら参加できるようにしています

七夕や節分、ひな祭りなどの日本の伝統行事のほか、夏祭りや運動会、クリスマス、発表会など、季節や子どもの成長を感じられるものなど様々な行事を行なっています。夏祭りはチケット制にして親子でゲームや買い物(おにぎりなどのお弁当もあります)が楽しめるように、職員が店番をしています。運動会では体育指導で取り組んでいる成果を披露しているほか、4歳児は組体操、5歳児はソーラン節などが恒例になっており、練習風景の見学で年下の子どもたちの憧れになっています。できた喜びを子どもとともに共有し、やる気に繋げています。

行事は子どもたちが協力して準備を進め達成感を味わえるように考慮しています

例年発表会は12月に行なっていましたが、今年度は2月に近隣のホールで行ないました。運動会と日程が離れたことでゆっくりと取り組むことができ準備にもゆとりができました。年齢によっては演目や小道具づくりなど子どもたちが話し合う機会をもち、子どものアイデアを取り入れながら取り組み、当日までの過程も大切に進めています。学年特色の合奏(3歳児)、鍵盤ハーモニカ(4歳児)、和太鼓(5歳児)を1年間の集大成として披露する機会にもなっています。異年齢で取り組む作品展では、友だちと協力してやり遂げた達成感を味わっています。

運動会や発表会など保護者参加の行事を通して保護者と成長を共に喜んでいます

年度初めに「年間行事予定表」を配布し、保護者参加の行事に見通しを以って予定が立てられるようにしています。今年度はコロナ禍が明け、保護者参加の行事も通常に戻りました。運動会や発表会では子どもの成長の喜びを共有しています。行事の目的や内容については、園だよりやクラスだよりで伝え、保護者の理解や協力が得られるようにしています。保護者が参加しない行事は写真の掲示などで生き生きと活動している様子を伝えています。運動会や発表会などでは、行事後にアンケートを実施して保護者に意見を寄せてもらい次回に反映しています。

5 評価項目5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目5の講評

日頃から室内環境や保育体制を整え、安心して過ごせるようにしています

室内はクラスごとに子どもの発達や興味関心を考慮して環境を整え、子どもが自由に玩具を手に取り遊べるようにしています。温かみのある木を使用した部屋で自由遊びや課業に取り組んでいます。一斉保育の中でも子どもの主体的な遊びを支援し、じっくり遊び込める空間の確保もしています。乳児クラスは担当制保育(職員1人対子ども数人)で、一人ひとり丁寧に関わり情緒の安定を図っています。クラスから離れて一人になりたい子どもについては、室内に一人用のコーナーを作ったり、事務所などで気分転換しクラスの活動に戻るよう配慮しています。

合同時間の考慮や、同じ担当職員など子どもが安心して過ごせるようにしています

16時50分からは0～2歳児クラスと、3～5歳児クラスの2グループに分かれて過ごしています。18時から(人数によっては早めることもあります)は全クラスが合同で降園まで一緒に過ごしています。年齢に合わせた玩具や日中とは違う延長保育専用の玩具も準備し、遊びに変化を持たせています。異年齢での関わりの中で年上の子が年下の子に遊び方を教えたり、世話をする姿が見られています。延長保育担当職員はシフトで変わりますが、同じ非常勤職員が担当しており、顔なじみの中で安心して過ごしています。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

落ち着いた環境での食事のほか、雰囲気を変えて楽しく食事をする機会も設けています

乳児クラスは食事と遊びの場を分け、担当制保育の関わりの中で落ち着いて食事がとれるようにしています。幼児は会話を楽しみながら食事をしています。保育者は子どもの食べられる量を把握し、適量を盛り付けるように配慮しています。年齢によっては子ども自ら自分の食べられる量を決めています。正しい姿勢で食べられるように子どもの年齢や体格に合わせた椅子やテーブルを準備しています。年3回の「ピクニックランチ」やお誕生日会の日には5歳児のリクエストメニュー、卒園前にはお別れバイキングを実施し、雰囲気を変えての食事を楽しんでいます。

盛り付けを工夫した行事食や食物アレルギーに配慮した食事の提供をしています

給食は園の栄養士が季節の旬の食材をとり入れ、栄養に配慮した日替わり献立で提供しています。栄養士は毎日各部屋を回り喫食状況を確認しながら、食事のマナーについても子どもたちに声かけしています。保育者は検食し給食会議でメニューや味付けなど話し合い、子どもの嗜好にあった食事を提供しています。行事食の際には、飾り切りや彩など見た目も楽しい盛り付けを工夫しています。食物アレルギーのある子どもについては、「アレルギー対応マニュアル」を作成し、専用のトレイで給食職員と担任が受け渡し時に確認し、誤食の防止に取り組んでいます。

クッキングや野菜の栽培などで食文化や栄養に関する知識と関心を深めています

食育は「年間食育計画」を作成し、食のマナーや食品の栄養について伝えるとともに、クッキングや野菜の栽培などを行ない、食文化や栄養に関する知識と関心を深めています。野菜の栽培はプランターでサツマイモや夏野菜を育て(乳児クラスは豆苗)、給食などで食しています。乳児クラスは玉ねぎなどの皮むき、幼児クラスは栄養士と一緒に恵方巻きや豚汁の野菜切りなどをしています。また、栄養士は箸の持ち方や栄養素の話、七草粥などの季節の行事食では由来なども話しています。未就学園児家庭を対象に給食の試食やクッキー、ケーキ作りをしています。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>保健指導などを通して身の周りの危険や健康について関心が持てるようにしています</p> <p>子どもが自身の健康や安全に関心が持てるように、年間保健計画を作成し年齢に合わせて取り組んでいます。毎月の避難訓練や警察官による交通安全指導、看護師による保健指導を実施しています。消防士との消火訓練では途中で出動となり、急ぎ着替えて出かける貴重な場面を目の当たりにし、憧れの眼差しで見送りました。歯科検診の機会には歯科衛生士が正しい歯の磨き方(看護師は歯の模型を使っています)を伝えています。手洗い指導などとともに日頃から絵本などを活用してわかりやすく伝えることで、けがや病気の防止と予防に努めています。</p> <p>嘱託医による内科検診の実施など専門機関と連携し子どもの健康管理に努めています</p> <p>嘱託医による年2回の全園児内科健診や年1回の歯科健診、蟻虫検査、毎月身体測定とカウプ指数の計算を実施し、子どもの健康管理に努めています。与薬は基本的に行なっていません(出来る限り家庭での投薬を依頼)が、熱性けいれんや食物アレルギーなど、医師の指示により必要な時には、「お薬依頼書」を薬と一緒に提出してもらい預かっています。職員は自動体外除細動器(AED)やアナフィラキシー緊急補助治療に使用する注射の使い方を看護師による講習会で学んでいます。発達に関するケアが必要な時には、町の教育相談に指導を仰いでいます。</p> <p>病気の予防を促し感染症発症の際には迅速な注意喚起で子どもの健康維持に努めています</p> <p>子どもの健康については入園時に配布する「入園に際しての重要事項」に感染症などの病気や、けがの時の対応について明記されており、個人面談で説明しています。毎月の保健だよりでは季節で流行する病気や予防法などについて伝え、健康に過ごすための対策などを伝えています。園内で感染症が発症した時には掲示板に迅速に掲示し、注意喚起しています。乳幼児突然死症候群(SIDS)については、入園時や保護者会で看護師が伝えるとともに、園では午睡チェックを実施し呼吸や体位を確認しています。0歳児は午睡チェックモニターを使用しています。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

個々の事情への配慮や保護者との会話を大切に信頼関係の構築に努めています

入園時の面談で保護者の事情や就労状況などについて聞き取り、個々の事情に配慮した保育時間を決めています。日頃から保護者とのコミュニケーションの中で家庭状況を把握し、必要に応じて相談にも乗れることを示しています。急な残業などによる時間変更には柔軟に対応しています。日々の子どもの様子は年3回の保護者会と年に1回個別面談の実施と、連絡帳を活用するとともに保護者との会話を大切にして共通認識を持ち、信頼関係の構築に努めています。持ち物は家庭にあるもので準備してよいとし、作り物は無くし保護者の負担を軽減しています。

行事や保護者会など保護者同士の交流と子育てについて理解を深める機会を持っています

行事(運動会、親子遠足など)や保育参観(通年で予約制)、保護者会など、コロナ禍が明け保護者同士が交流出来る機会が増えました。夏祭りでは親子でゲームなどを楽しみながら、他クラスの親子とも交流しています。運動会も小学校の体育館を借り、保護者の参加2名で実施できました。保護者会では保護者同士意見交換できる時間をもうけ、子育ての考え方について互いの理解を深める機会ともなっています。子どもが年齢を重ねながら、保護者同士の関係も深まりました。

保護者との共通認識のもと子育ての考え方について互いに理解を深めています

連絡帳のやり取りや送迎時の会話、懇談会などの機会に、子どもの発達や育児など保護者と共通認識を持ち、子育ての考え方について互いの理解を深めています。懇談会では子どもの発達段階や現在の姿などについて伝え、接し方などの育児のポイントについて話すとともに、看護師や栄養士(必要に応じて)が健康や栄養、離乳食について話しをする機会を設け、共に考え合う機会としています。乳児は個人月案を保護者に渡し、ねらいや働きかけ・配慮を共有しているほか、掲示板やホームページ、園だよりなども活用して保護者の養育力向上に努めています。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目9の講評

公園への散歩など地域資源を活用し多様な体験や交流の機会を設けています

近隣の自然を活かした散歩や、警察署員や消防署員による交通安全指導や消火訓練見学、小学校訪問などを実施しているほか、神社や高齢者施設など、地域資源を活用し多様な体験の機会を設けています。隣の市まで続く丘陵の公園は自然を活かして整えられ、遠足にも活用しています。古民家や生き物と触れ合えるエリアもあり、コマや竹馬、ザリガニ探しなど昔遊びなどとともに四季折々の自然を体験しています。警察官には交通安全指導のほか、不審者対応なども実施しました。神社には自治会の役員に誘われて、節分の豆まきに参加させてもらいました。

地域資源を活用する中で、職員以外の様々な人と交流する機会を設けています

小学校との交流会や高齢者施設と毎月4、5歳児が交流していましたが、感染症対策のため控えており、高齢者施設には勤労感謝の時にプレゼントを渡しています。それぞれ今後再開する予定にしています。専任講師による体育指導、保育実習、ボランティアの受け入れをしています。子育て支援事業として「とのがや広場」を実施し、地域の未就園児の家庭に遊びの場を提供しています。毎月9時45分～11時まで、遊びやお話、制作、観劇会、行事への参加などを行なっています。様々な施設職員や取り組みで職員以外の人と交流する機会を設けています。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している
タイトル①	「感染症対策委員会」を立ち上げ、園内の衛生管理の徹底に努めています	
内容①	<p>コロナウイルスの蔓延をきっかけに、主任、副主任、看護師を中心に「感染症対策委員会」を立ち上げ、園内における感染症対策を行ないました。コロナ禍においてはもちろんのこと、5類になった現在でも季節で流行するインフルエンザなどについての対応策を検討しています。園内で感染症が発症した時には迅速に注意喚起することで、園内での流行を防止しています。また、玩具を衛生的に保つために、次亜塩素酸水を使用することや、行事の際のマスクの着用の基準を検討しています。これらは職員間で共有し保護者からの疑問に答えられるようにしています。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	園の特徴として、幼児クラスからは「課業」に取り組み、成果が表れています	
内容②	<p>とのがや保育園の目指す保育の姿として、年齢ごとの目標と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえ、幼児クラスは就学に向けて体育、音楽、文学、学年特色などの課業に取り組んでいます。体育は3歳以上が月2回専任講師の指導を受け、運動会では日頃の取り組みと、発表会では学年特色の合奏や鍵盤ハーモニカ、和太鼓を披露しています。文学は一定時間椅子に座る機会と自分の名前や気持ちを書けるようになり、自信に繋がっています。音楽活動はリズム感が付き、上手に歌を歌えるようになるなど、課業への取り組みが成果を見せています。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	1-1-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している
タイトル③	育児担当制保育から一斉保育への切替えで、自立心、想像力や表現力が育まれています	
内容③	<p>0歳、1歳児クラスは、ひとりひとりに寄り添ったきめ細やかな保育を意識し、育児担当制保育を実施しています。自立心、想像力や表現力等が育つように主体的な遊びを支援し、生きる力が備わるように丁寧な保育を心がけています。また、小学校への就学で困らないように1歳児クラスの後半から少しずつ一斉保育を取り入れています。例えば、その後の2歳児クラスでは、保護者が用意した洋服等を、子ども自ら外遊びにいく前にケースからテキトーに選び、組み合わせ、自分の机に準備し、戻ってから着ています。一斉保育では友達からの学びも見て取れます。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	行事や食育、保健、戸外遊びなど様々な活動で子どもの健康管理と維持に努めるとともに、生活や遊びに変化を持たせています
	内容	コロナ禍の制限がなくなり、保護者参加行事では子どもの成長を感じられる機会が増えました。食育活動では野菜の栽培や栄養士とともにクッキングに取り組んでいます。栄養士による箸の持ち方や栄養素の話や聞く機会を設けています。看護師は歯の大きな模型を使って正しい歯の磨き方を伝えたり、プライベートゾーンの話をするなど、保育士と栄養士、看護師が連携し、子どもの健康管理と維持に努めています。近隣には隣の市まで続く丘陵があり、散歩や遠足に活用し四季折々の自然を体感しています。十分な戸外活動で丈夫な体づくりに繋がっています。
2	タイトル	園の特徴的な「育児担当制保育」や一斉保育、「課業」など就学に向けて乳児期から取り組み、子どもの健やかな成長を支援しています
	内容	保育理念や保育目標に向けた取り組みの中で、0、1歳児クラスは「育児担当制保育」(担当する子どもに対して生活や活動の支援)を実施し、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな保育で自立心や想像力、表現力が育つように、子どもが主体的に遊べる環境を保障しています。2歳児から一斉保育として5領域(健康、人間関係、環境、言語、表現)に基づいた年齢別保育に移行しています。3歳児からは幼児期の発達に沿って身に付けたい能力を育む「課業」を軸に、集中してじっくり遊べる環境から友だち関係を作りまで子どもの健やかな成長を支援しています。
3	タイトル	勤務形態等は関係なく誰もが意見や提案を自由に発信できる土壌整備によって、職員の円滑なコミュニケーションが期待されます
	内容	雇用形態や勤続年数等とは無関係に、相談し安い環境が整備されています。意見交換や情報収集の機会も多く、問題点や課題等は、各リーダーや、副主任保育士・主任保育士に投げかけることで、即座に会議等の議題として取り上げられます。確かに、早期問題解決ができない案件もありますが、立場等が異なる職員が一緒に考えていく流れが浸透しているのは確かです。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	コミュニケーションを大切に信頼関係構築に努めており、職員の確実な情報共有と伝達で更に保護者に寄り添った対応に期待ができます
	内容	登降園時の会話や個人面談を実施し、保護者とのコミュニケーションを大切に保護者と子どもの成長を共有しています。乳児期には「個人月案」を作成し「保護者の意向・家庭の様子」欄も設けて保護者とやり取りし、子どもの発達や成長を共に確認し互いに子育ての視点を共有しています。行事後にはアンケートを取り、意見を寄せてもらい出来る限り次回に反映し、信頼関係構築に努めています。一方で職員の情報共有に課題があると感じており、今後は必要な情報の共有と伝達を確実にし、より保護者に寄り添った対応を心がけていきたいと考えています。
2	タイトル	自己研鑽と職員全体の専門家としてのレベルアップのための学びの機会を職員がより積極的に活用していくことが望まれます
	内容	保育士や看護師等としての知識や能力向上に向けて、さらなる学びが必要と考えられます。各自が望む目標も希望する勤務形態は様々ですが、各自がスキルアップすることで自信につながり、保育にも良い影響を与えます。また、他者や周りを見る力も必要と園長は考えており、自分が気づくことで、円滑なコミュニケーションに発展していくと想定されます。職員一人ひとりが自身のキャリアを意識し、役立つ研修を自らが探し出してくる等、学びの機会や研修の種類を増やすことで、自己研鑽と職員全体の専門家としてのレベルアップに繋がることを期待します。
3	タイトル	専門家としてのプライドや責任感は子どもの最善の利益に発展していくため、キャリアパス等を通じて職員全員に浸透させることが望まれます
	内容	プライドや責任感は研修等による学びの機会を通しても育っていきませんが、自己肯定感を高めていくことで備わります。職員のプライドや責任感を高めるには、組織として職員全員に明確なキャリアパスを示して、それと連動させる形で人材育成の計画を立て、各職員に適した育成を行うことが大切と考えられます。職員へのキャリアに関するアンケート調査や聞き取り調査の結果をキャリアパスに反映させる等、職員を組織としても支援していく姿勢が求められます。